

事業名	飼料関係対策事業費			調査番号	79
細事業名	飼料利用高度化推進事業費	財務コード	317403		
担当部課室	農政 部 畜産 課 安全衛生 担当 (内線)	5266			

事業の概要

実施期間	始期 S63 年度 ~ 終期 年度
実施主体	県(直営)
目的	だれ(何)を対象に 畜産農家 その対象をどのような状態にして 給与する自給飼料の栄養特性を把握し、 適正に自給飼料を利用する。 結果、何に結びつけるのか 畜産経営の安定化
内容	畜産酪農技術センター長坂支所を中心に、畜産農家の飼料の成分分析等を行い、その結果を農家へフィードバックを行うことや最適な飼料混合割合の設計等を行う。また、それらのデータを活用し県関係機関や畜産関係団体が連携し、畜産農家の経営安定を図るための指導を行う。

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
活動指標	飼料分析件数	目標	240	240	240	240	240	240
		実績(見込)	241	282	418	520	443	240
		達成率	100.4%	117.5%	174.2%	216.7%	184.6%	100.0%
		達成区分	b	b	a	a	a	b
成果指標	牛群検定参加農家の乳牛(ホルスタイン種)1頭あたり年間乳量(kg)乳脂率(%)	目標	8,700~9,700 3.8	8,700~9,700 3.8	8,700~9,700 3.8	9,700~10,200 3.8	9,700~10,200 3.8	9,700~10,200 3.8
		実績(見込)	9,247 3.74	9,628 3.68	9,513 3.73	10,137 3.65	10,221 3.72	10,200 3.7
		達成率	95.3% 98.4%	99.3% 96.8%	98.1% 98.2%	99.4% 96.1%	100.2% 97.9%	100.2% 97.9%
		達成区分	b	b	b	b	b	b
決算(予算) 単位:千円		3,330	3,329	3,393	3,718	3,338	3,445	3,440

事業の評価(平成28年度の業績評価)

活動指標	a	評価	例年大幅に目標数値を上回っている。
成果指標	b		目標値は、県計画の「家畜及び鶏の改良増殖計画」に基づくものであり、目標達成の設定は平成37年度となっている。平成37年度に向け順調に進んでおり、成果を十分に上げている。

- ・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
- ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

見直しの必要性(平成30年度に向けた改善等の考え方)

判断	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い <input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い		
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input checked="" type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ()	
説明	畜産経営の総合的な指導を推進していくためには、県を中心に各関係機関が協力して進めていく必要があるため。		
有効性(成果向上)	判断	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない	
	説明	これまで飼料分析結果に基づく適正な飼料設計により乳量の向上が見られることから、今後も引き続き成果が期待できる。	
見直しの余地	判断	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input type="checkbox"/> 見直す余地がない	
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他	説明		
見直しの必要性	有	分析手法を手分析から機械化することにより、作業時間を短縮する必要がある。	

見直しの方向(平成30年度当初予算等での対応状況)

改善済み	説明	分析手法を手分析(飼料成分を1つ1つ処理して分析)から機械化(複数の飼料成分を同時に分析)にすることにより、5品種の飼料において分析時間の短縮を図ることができた。それにより、分析結果のフィードバックを早めることができ、農家の要望に迅速に対応できるようになった。
------	----	--

見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。